

## (5) 剣道研究会全体を通してご意見をお願いいたします。

- ・以前から剣道研究会はとても素晴らしい企画だと受け止め、大変感謝しています。過去に文化的なことから、剣道の著名な先生のお話しなど、自分がとても考えさせられる内容のものばかりでした。是非、今後も続けていただきたいと思います。
- ・今回、時節柄のテーマであることは理解でき、適切だと思いました。また、剣道に限らない中学校部活動の方向性を知ることができました。ただ、国の示している実施期限の見込みが、会長の説明の印象とは異なり、10年度あるいは13年度？であることを知りました。  
この幅があることは、意見交換の発言の内容から良いことと受け止めました。中学校の先生の発言、その現状に即した努力や説明を私は納得しました。中学校教育における部活動の位置づけに課題は大きく、その課題を丸抱えしながら務める先生方の努力に拍手を送ります。
- この点では、会長さんの問いかかけや投げかけを、いささか性急に感じましたし、部活動の担当者が現状以上に、地域との連携の作業を進めるよう、役割を担うよう求めているようにさえ感じました。(剣道連盟がすべきこと、学校がすべきことの議論は広く、長く行うことと考えます。)
- ・本研究会講師の先生方の発表はわかりやすく、今後の参考になり現状の把握や取り組みについて理解できました。意見交換の時間はもう少し長くとり有意義に進められれば良かったように思います。
- ・発表の中で部活のある学校での取り組みはわかりましたが、そもそも剣道部の部活の無い中学校への対応にも考えていく必要があると思います。(その中学校の数は増えているようです)
- ・いつも様々話題をありがとうございます。

- ・中学校部活動地域展開という大きな課題を県下支部で共有する機会を設けていただき、貴重な情報を得られることを感謝して参加しました。

研修会でも講習会でもなく、研究会と位置付けられている以上、本来は自らの意志で自発的能動的に参加するものだと思います。その点から考えると、前半は情報提供や伝達であったことから（課題の共通理解を図るには有益だったと思います）、今回は、後半の意見交換が重要だったと思います。会長の一方的な質問に答えるだけとか、会長が会員の発言に責任を問われるようでは、これまで以上に皆が自分の意見を言いにくい空気の醸成を感じました。

さらに、中体連の対応が遅いとか、怠慢だというご発言は、研究会で発表した中体連の小島先生、大川先生に対しても失礼ですし、数十年信念をもって部活に心血を注ぎ、真摯に生徒に向き合ってきた私としても甚だ心外でした。

もっとたくさんの出席者の見方考え方が聞けて、その中から直面している喫緊の課題に向けたプラスの糸口が模索できる機会であってほしかったです。

- ・予定時間を30分も超過する運営に疑問。  
中体連に特化した研究会なのか、地域展開する際の地域の受け皿が主題なのか、次は明確に焦点を絞ったテーマと進行をお願いしたい。
- ・ペーパレス化は良いと思いました。
- ・終了時間は厳守が良いと思いました。
- ・可能な限り、当日県・支部行事に被らない日程を考慮した方が良い。・県全体→支部→地区など

も含め、継続的な研究会ができれば良いと思う。

- ・会議の主な議題が地域展開であったため、当初想定していたテーマ（剣道人口減少への対策）とは若干異なっていたと感じております。事前に地域展開についてより周知されていれば、具体的な検討準備ができたかと存じます。地域展開の重要性については理解いたしましたが、剣道人口減少についても、より踏み込んだ議論が必要であると改めて感じました。

私見ではございますが、意見交換会の際に教職員の方から提案された、学校への連盟からの巡回指導は非常に有効な施策だと感じました。現状では実施が困難とのことは理解しましたが、できれば実現させていただければと思います。

現時点を考える施策として、私から中高生向けの教養資料作成をご提案させていただきます。剣道界には素晴らしい先生方が数多くいらっしゃいます。その先生方の理念や生き方を、Instagram や X などの SNS で簡潔に発信し、詳細は連盟ホームページに掲載する、といった方法はいかがでしょうか。例えば、外務省のホームページには茶道家であり剣道家である方の紹介ページがございます ([https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/local/page22\\_003974.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/local/page22_003974.html))

これにより、中学校や高校に剣道部がない生徒も、以前通っていた道場で剣道を続けるきっかけを見つけたり、進路や人生に迷った際の道しるべとなったりするのではないかでしょうか。中高生がこれから的人生設計の一部に剣道を位置づけることができれば、剣道を辞める生徒を少しでも減らすことに繋がるはずです。

「剣道とは…人間形成の道」と言われても、まだ剣道を始めたばかりの若者には理解しにくいものです。そのような彼らに対し、道の後半を歩んでいらっしゃる先生方の具体的な生き様を伝えることで、先生方への憧れを抱き、目標とすべき「道」を見出す手助けとなるような情報提供をご検討いただければと思います。

- ・テーマと当日の内容に距離のある部分があったのでは?と思いました。
- ・意見交換はデータと事実に基づいた議論がなされるべきと感じました。
- ・本研究会のテーマ「剣道人口減少問題」に対して中学校部活動地域展開（移行）を中心でした。支部内中学校からの情報がないところで支部として何をすべきか理解できませんでした。行政からの指示が出ているのでしょうか。
- ・説明を頂いた支部以外にも現在取り込み中、または具体に策定中の支部があれば伺いたかった。
- ・中学校部活動の地域移行の必要性は理解できますが、指導者の明確な役割と責任範囲や、報酬等、不利な立場にならないような行政を通した制度が必要と考えます。
- ・中学部活動の地域展開については、今からより多くの人に理解していただいた方が良いと思います。特に学校の先生方は「時期的にまだ先の話である」と考えている方が多いと思います。今回の研究会に先生方の出席が少なかったことはその証とも言えます。各支部では、早期に中学部活動の地域展開に備え、「学校に派遣する指導者の抽出」や「学校側との連絡体制の確立」などに動く必要があると考えます。
- ・他地区での取り組みを伺うことができ、大変貴重な機会をありがとうございました。現在、娘が中学1年生で公立中学校の剣道部に所属しており、剣道未経験の顧問の先生方のもとで活動しています。中学生から剣道を始めた生徒と、幼い頃から剣道を続けている生徒の間では熱量に差が生まれやすく、互いのやる気を損なわずに活動していくために、私にできることは何かないかと考え、今回参加させていただきました。

初心者の子どもたちが出場できる大会は、自信やモチベーションを保つ上で非常に良い機会

だと感じました。また、中高生が一緒にチームを組んで対戦できる取り組みも、とても素晴らしい試みだと思います。

現代の子どもたちは「楽しい」と感じられることが、継続の大きな力になると日々感じています。剣道を楽しいと思い、続けたいと思ってもらえる環境づくりを、これからも大切にしたいと思います。

また、意見交換でも話題に上がっておりました中学生の錬成会についても、他県の中学校あるいは地域移行をしている団体などを呼んで神奈川県剣道連盟として開催していただけだと大変ありがとうございます。ぜひご検討いただけますと幸いです。

今後もこのような機会がありましたら、ぜひ参加させていただきたいです。

他地区での取り組みを伺うことができ、大変貴重な機会をありがとうございました。

現在、娘が中学1年生で公立中学校の剣道部に所属しており、剣道未経験の顧問の先生方のもとで活動しています。中学生から剣道を始めた生徒と、幼い頃から剣道を続けている生徒の間では熱量に差が生まれやすく、互いのやる気を損なわずに活動していくために、私にできることは何かないかと考え、今回参加させていただきました。

・部活動は日本の教育制度の中で学校生活に深く浸透しています。自分を振り返っても中学入学時に何かクラブに入らなければという風潮があったことを覚えています。術義の向上、友達をつくる、先輩後輩の上下関係を身に着けるという意味では部活動は意義があると思います。しかし、武道を例とするなら、技術をより専門的に掘り下げるなら道場に通うべきだと思います。

海外の事例をあげれば、アメリカやフランスでは学校に部活動はなく、教員も部活動に係わることはないそうです。

私の勤務する市役所で働くフランス人の国際交流員は朝練や休日の教員の引率などは信じられないと言っていました。それでもフランス柔道はフランス国民に浸透し、本家の日本より柔道人口は多くなっています。国見正や歴史の違いがあるので同じことを日本で行うことはできないと思いますが、何か参考になれば幸いです。

・この時期に中学校の部活動の今後と現状を理解することで、瀬谷区剣道連盟や各支部（道場）として、今後の対応を準備していく為に貴重な機会になった。各中学校の顧問と意見交換を行いながら、現状の把握と今後の取り組みについて共に考えていきたい。

喫緊の課題として、来年度以降の土日の部活動の在り方については、校長や顧問のニーズを踏まえ、支部としてできることの準備を進めていきたい。また、剣道人口減少を食い止めるために、瀬谷区剣道連盟として今後取り組んでいくべき課題が見えた。

・現行の中体連主催の県大会・関東大会・全国大会がどうなるのか？気になる。

・地域移行が地域展開になったことすら知らなかったので大変勉強になりました。また、意見交換会を通して、学校の先生方の葛藤のようなものも感じることができました。もし、神奈川県内のどこかの地区で先行事例があるのでしたら、小さい取り組みでもいいので知りたいです。

また、関係人口といった点で考えると、今後、指導者の先生だけではなく、保護者の方や学生さんも含め、広く参加できるようにしていいのではと感じました。みんなに関わりのある大事なテーマだと思います。事例紹介と意見交換会で、日にちを分けても良い気がしました。例えば発表はzoomでオンラインで行い、後から見れるようにする、意見交換会はライブの方が良いと思うので、オフラインで行うなど。

・地域移行が待ったなしである危機感を共有できた一方、地域の一個人として対応できることに限界もあると理解しており、難しい問題と感じた

・この度は、有意義な研究会を開催いただき、ありがとうございました。

中学校部活動について喫緊の課題があることが理解できました。

以下感想。

・先行している自治体の取組、神奈川県内の地域格差など多くの情報を確認でき、それらを踏まえて自分自身や所属している団体で何をすべきかなどが理解できました。

地域展開に向け支部として地域中高校生との関係深化が急務だと気づきを得られました。

川崎市を始めとする他地域事例は、港北区でも流用できるイメージが持てました。

剣道人口の維持・拡大には、生涯剣道を目指すべく、各支部は運営の継続性を図り、高校・大学生との交流にも注力すると気付く機会となりました。

・部活動移行について、現場の中学校側では具体的な対応が降りてきていなかったようであった。

このため、現時点で中学校や教育委員会へ話を持って行っても建設的ではないと感じた。

また、各支部において具体的な案を検討したうえで話を持つてい行かないと、何も進まないと感じた。

まずは、中学校・教育委員会などの移行を検討している側で、どのようにしたいのか整理が必要です。そのうえで地域クラブに何を期待するのか、具体的な議論を進める流れが良いと思います。

また、顧問のワークライフバランスは理解できますが、会社勤めで剣道の指導をしている身としては、なんか身勝手な対策だと感じています。我々も情熱をもって、仕事以外の時間を使って活動しています。そこへさらに責任を負わされたうえで中学校の名前で活動してほしいというのはあまりに身勝手だと感じます。学校教育で文武を掲げるのであれば、まずは学校側で自己解決すべき課題だと感じています。

どうしても部活動が難しい場合は、地域のクラブなどに入るよう奨励するというのであれば私も協力できると思います。

・部活動地域展開については、各市町村の教育委員会・関係部局が管轄となり、方針を定めたものを各学校が対応する流れになります。その中で、必要に応じてスポーツ協会等を経由し、各支部の剣道団体等に共有され、支援について校長の判断のもと実施していくかと思います。

この様な状況を踏まえ、意見交換会の中で会長より、各中学校顧問（中体連）が動いていない等の発言があり大変残念に感じました。中学校の先生方は、動きたくても動けない状況であることをご理解いただけたと幸いです。

また、部活動地域展開については、公表されている資料の内容から、様々な解釈や読み取りができるところから、必要に応じて、国や県の担当者を招いて全体説明を行い、共通解釈の上、剣道連盟として、今後の方向性や取組を検討する流れが適格と感じました。

・私は若輩者で会場にいた先生方のような思慮深い意見は出せませんが、研究会に参加して剣道をただ楽しく行えてこれたのは各支部の先生方が陰ながら支えてくださっていた事を知るきっかけとなりました。

剣道人口や部活動のあり方については、私個人では何も出来ないと思いますが、何か力になれることがあれば私なりに取り組みたいなと思いました。また年代が30代なのでまだ若い方の世代の仲間に共有していければと思います。

今回は貴重なお時間をありがとうございました。とても勉強になりました。

・剣道の魅力を伝える様々な取り組みを伺う事ができて貴重な機会となりました。

地域展開についての意見交換は、それぞれの立場もあり難しい問題ですが、他人事にせず、各人が出来る事は何かを考える事が大切だと感じました。

剣道の指導はボランティアで成り立っていると思います。気持ちがある人、時間が作れる人が、繋がりのある学校に行って教える事が良いと思います。

ただ、不定期にならないよう任命して責任をもってもらうこと、怪我やトラブルのケアとして、

学校の先生も始めと終わりにチェックしてもらう歩み寄りが必要だと感じました。

- ・今回のテーマについて、中体連の活動が先行し他の団体との足並みがそろっていない感がある。このテーマで、いつまでに、誰が（どの団体が）、どうすのか が明確になっていないため、全体としてわかりにくい。  
もう少し具体的な討議題材で行ってほしい。
- ・全体的に数字を示しての説明が多過ぎた

\*会長の独演会は歓迎されない。しかもテーマに対する県連の方針が示されないばかりか県連としての課題意識も明確ではなかった。

\*中体連の先生だけが出席しているわけではないので、共通の論議が出来るとよかったです。

- ・活動報告や交流会の報告は理解できたが、今後、支部・道場単位で動くにはどうしたら良いのかわからない。

神奈川県剣道連盟は予算はないとのこと、支部や剣友会はもっとお金がないので補助がなければ動けない。学生に負担させるのはもっと無理だと思う。

- ・中体連の顧問一同、剣道人口を減らさないよう努力しているつもりですが、その努力が報われていないということで、とても残念に思いました。自分はもうこれ以上、がんばることはできませんので、申し訳ないと感じました。小さい娘たちを残して土日に部活に行っている状況を考えた時、神奈川県の剣士たちも大事ですが、自分の家族はもっと大事ですので。

- ・開催回数を増やして頂きもっと多くのご意見や現状を聞きたい。

- ・剣道人口減少に真剣に取り組みたいと思います。まずは地元の中学校の部活指導との打ち合わせを行い現状の確認と改善の方策を区連全体として考えていきたいと思います。

- ・前半の事例紹介は理解できた

- ・後半の部活地域展開の現行と今後の備えについてはよくわからなかった。

- ・現在の課題ととらえていることをテーマにしている点は理解できます。全県的にアンケートを取りまとめていただいたことは、とてもよかったです。

国が学校の部活動をなくすという方向性で、段階を踏んで進めている中で、最終段階においては、学校とつながって活動を継続していくことは難しさがあると思います。現段階では、指導できる顧問がいない学校において、連盟が外部指導者を派遣するとか、大会への審判協力、合同稽古の実施など、できることはあると思いますし、すでに実施している支部はあると思います。

完全に部活動がなくなり地域展開とするのであれば、剣道連盟として、部活動というものがなくなった後に、どう剣道人口を増やしていくのかを考え、全剣連・県連盟・各支部ができるこことを考える必要があると思います。

また、今回意見交換の時間が、広く意見交換の場とならなかつたことは残念です。

- ・中体連の先生方が学校現場で大変ご苦労されながら取り組まれている様子が伺えました。

- ・國の方針が聴けて良かった。また、それに沿って現場でどうすべきか、ある程度見当がついたことは今回の収穫であった。今回の場合は休日の稽古に関する話であったが、平日の部活動につい

て國の方針、それへの対応等について情報を頂きたい。

- ・色々資料を作つて頂きありがとうございます。

☆武道の精神は「お互いを認め合い、高め合う」と教えられてきました。意見交換会というのは、少しでも多くの方から意見を出して頂き、皆の意識がより一体化して行く。良き意見は参考にし、吸い上げることもできる。

今回の研究会は、参加された殆どの方が暗中模索の状態だと思います。ところが、当日の質疑応答の会長とのやりとりは、質問者に対して何度も問い合わせた後、あたかもコーナーに追い詰めるような印象を与えました。これでは質問が出るどころか、会に参加する気持ちも失せてしまします。

意見が出やすい雰囲気づくりが必要ですし、増して、会長自らがメインとなってマイクを握る場ではありません。進行役がつとめれば良いことです。

- ・今回の集まりにより、従来から『地域移行』という言葉だけは聞いていたが、剣道のみならず中学の全てのクラブを対象に部活をやめる。という方向に進んでいる点に驚いた。

これについては、現場としては受け皿候補の剣道各支部が中体連の先生と会合を持ち、意見交換していく事が必要と感じた。

- ・発表された先生方が非常に熱心に取り組まれており、内容についても良く理解できました。剣道人口の減少に、地域・所属団体の中で、できることに取り組んでいきたいと改めて思いました。

- ・今後、具体的に地域学校との話し合い、市町村との話し合いをどのように行えば円滑な“地域移行計画策定、試行、実施”までを行うのが良いのかを明確にして、この後に県県連及び各支部の役割分担、具体的担当の指名、実施までの手順を明確にして欲しい。

○前半の発表は、素晴らしいものでした。各支部にアンケートもとり研究・考察もされた発表もあったのですから、質疑応答の時間があったほうがよかったです。

○後半の意見交換会は、全く意見交換や討論の場ではなく中学校の先生が部活移行に対して何もやっていないような印象を受けただけとなつたのは残念でした。将来構想剣道人口検討部会がファシリテーターとなり結論は出ずとも、もう少し自由な意見が色々と出るような場面設定があつたほうがよかったです。

- ・スライド等を用いての説明は、わかりやすく内容も素直に入つきました。

今の内から取り組んでいくことの必要性について理解したつもりです。

しかしながら、各地域によって感じ方にばらつきがあると思います。

前回の（区）の理事会において報告した時も「まだ先の話」と受け止められている方が大半でした。今回の研究会の内容を（区）の理事会で報告し、各理事のこの問題に対する区の取り組み方を考えていきたいと思います。情報提供をお願いします。

- ・県連会長のお話しが長く、かつはじめから「県連はお金がない」の説明では質疑にならず、研究討議などあり得ないと印象

- ・中学校部活動地域展開については、各支部の水面下の動きとともに神奈川県剣道連盟と神奈川県教育委員会が何らかの形で連携を深めることでさらに動きがスムーズに運ぶことになると思いました。

## (6) 今後、剣道研究会でとり上げて欲しいテーマがありましたらご記入ください。

- ・あくまでも個人的な嗜好ですが、一つは、以前のように文化的な講話などがあれば嬉しいです。また、剣道の歴史と発展（例：終戦後の剣道禁止からいかに剣道が発展したかなど）にも関心があります。先人に感謝し、過去を知ることで将来を考えることが出来るのではと思っています。
- ・児童、生徒数減少の中、行われるスポーツ、スポーツ以外の文化の多様化、拡大化の中であえてスポーツ、とりわけ剣道が持つ魅力とは何なのか、今後の為にも、ひとり合点でなく、説明できる手立てを知りたいと思います。
- ・このところ問題となるパワハラやセクハラ等を含め指導者の今あるべき姿、行動、指導法、伝統文化の伝え方等。
- ・剣道
- ・講演会（剣道関係者以外でも可）
- ・様々な取組の報告を聞きましたが、中学校と地域との意思疎通が不十分であることから、まずは現状の地域移行の進捗状況の把握の必要性を感じましたので、明確に進められている内容を教えていただければと思います。
- ・剣道（日本剣道形を含む）に関する知識、技能の向上パワハラなどハラスメントの防止健康維持、精神修養に関する問題など
- ・刀剣の知識について取り上げていただきたいと思います。以前、渡邊妙子氏（公益財団法人佐野美術館館長）の「清磨」、高山一之氏（鞘師）の「日本刀の拵えについて」、小島つとむ氏（株式会社銀座長州屋）の「刀を楽しむ」の講演を聴講しました。剣士にとって興味深いお話だと思います。
- ・パワハラ、セクハラ、幼年に対する体罰問題など、コンプライアンス全般について取り上げていただきたいです。可能であれば、例えば大阪体育大学の土屋 裕睦先生などに講師をお願いして、講習会を開いていただきたいです。中体連・高体連・大学・一般企業などではこういった講習会や注意喚起は多くなされているかと思いますが、特に少年剣道に関しては監視機関がないためブラックボックス化していると聞きました。競技人口にも関わる重大な問題だと思います。
- ・剣連事務作業の効率化、デジタル化、会員管理方法について
- ・当面は今回の課題が重要と認識しており、引き続き今回のテーマを深堀りされるのがよいと考えます。また、剣道の文化的側面の継承についても扱う必要があると考えます。正しい剣道の普及を推進するためにも、剣道の文化的側面の何をどう伝え、どう行動変容を促すのか？を考えることで、剣道の魅力が再認識されると思います。
- ・現在地域として将来にわたり心配していることは、以下の通り。
  1. 小学生を中心とした子供たちが剣友会等に入会し、剣道をしようとする人口が減っている。長年にわたり地元にて剣友会活動を行っている中での感じている事象。子供の人口も減少しているが、子供たちは、野球など他のスポーツに惹かれる。

剣道がもっと子供たちに惹かれるにはどんな努力をしたらよいのかの観点でとりあげてもらいたい。

2. 剣道を始めるための入り口をもっとひろげる手段はないのか。

- ・「剣道人口が増加し振興するには何が必要とされるか」という問題意識からの自由討議こそ県連の研究テーマだと考えます。
- ・幼少年への勧誘や指導方法。女性剣士同士の交流。
- ・第一線で活躍された方のお話を聞く機会を作つていただけると嬉しいです。その内容が小中学生向けのものでもいいかと思います。
- ・剣道講和（著名な先生方）
- ・八段合格者の修行経験談
- ・多くの人に剣道に関心をもち、楽しんでうために「武道としての剣道」から「スポーツとしての剣道」（オリンピックへの参加も含め）の可能性について様々な論考があると興味深い。
- ・小学生を対象とした剣道の普及、取り組みのしかた。
- ・初心者が参加しやすい大会やイベントの整備と子供たちにとって魅力的で続けたくなる環境づくり、さらに初心者から上級者まで幅広く活躍できる大会システム
- ・各支部での移行の成功事例。
- ・神奈川県以外での剣道人口減少に対する取り組み
- ・高校剣道部の現状
- ・昔からの厳しいイメージではなく、現代にあった指導法
- ・私は2022年から3年間、高校剣道部を外部指導員として指導をしてきました。高校剣道部でも他の部活動への入部や、大学受験等のため剣道を中断する生徒が増加して部員が減少し5名以下となり団体戦への参加が出来ない高校が増えてきている現実があります。  
中学校部活動の地域移行活動が高校部活動にも容易につながるように配慮をお願いします。

○今回の剣道人口問題については、引き続きテーマとして扱っていただきたいと思います。

1.剣道と体の関係

2.日本剣道形、理合いと実践

・剣道の普及

## (7) 自由意見

研究会では部活動地域展開（移行）による中学校（中学生）の剣道人口問題をテーマに、意見交換を行いました。参加者から小学生（幼少年）からの剣道普及についても検討することが必要ではないかという、貴重なご意見をいただきました。

皆さまのご意見をお寄せください。

- ・私が所属する支部でも小学生（幼少年）の剣道人口減少は既に深刻化しています。道場によっては小学生が1名、または、ゼロという所も出てきています。パンフレットを作成して配布したり、地元のスポーツイベントでPRをしたりと繰り返し取り組んできていますが、誠に残念ながら効果は甚だ限定的です。今後、剣道研究会を通じて小学生（幼少年）についても取り上げていただければと思っています。
- ・自身の関わる道場、幼稚園でも剣道人口は減少していますが、指導に当たる者の役割として、「剣道が楽しく、好きになる過程を1年をして保護者にも伝えるように」とは考えてはいます。答えが出るのが毎年度末で悩ましい限りのこれまでです。
- ・部活動地域移行について、現場に携わる神奈川県剣道中体連からの現状報告、地域への要望や考え方等を直接に伝えてほしいと思いました。（特に横浜市）
- ・今後、剣道をしている中学生の保護者を交えた意見交換が必要と思います。竹刀、剣道用具等の金額が高価であることも、剣道離れの原因の一つかも。
- ・公立中学校で6年間外部指導員をやってきた。これまで各校長先生の考え方には大きく左右されてきた感がある。個人的に教育委員会や市会議員とも意見交換したがまずは各学校で論議してほしいと言われ続けた。国の方針として今後3年の間で一定の方向性を固める指針が出ているのであれば少なくとも各自治体でも各学校任せだけではなく大枠としての方向性を示してほしいと思う。
- ・剣連としても現状の分析と課題を整理して自治体に対して何がしかのアクションがあれば効果的ではないだろうか。
- ・中体連と道場連盟の現存する課題の見直しが必要ではないか。責任問題、保証問題、各大会への参加要項等について整理し子どもたちが部活のやりがいと意欲を失わない新たな道筋を創ることが求められている。
- ・各競技団体がタグラグビー、ソフトバレー、プレルボール、Tベースボールなど20年以上前から小学校の体育学習に各競技の要素となる動きを入れたゲームを織り込むようにしてきています。小学校の体育科の学習には武道はありませんが何か考えてもいいのかもしれませんと感じています。
- ・上記（5）から課題が浮かび上がると思う。
- ・現場中学校の先生方の積極的出席が欲しかったように思う。
- ・特に中学校の先生方から地域展開への思いや現場での悩みなど率直な意見を聞きたかった。

- ・幼少期から剣道を始めることが重要だと思いますが、剣道人口増加という点からみれば何歳からでも剣道を始められる環境作りも大切ではないかと思います。
- ・少子化のなかにあって、幼児から小学校低学年を対象にした普及活動について具体例アプローチについて奏功している例があれば聴いてみたい。
- ・小学生からの剣道普及であれば、エンタメ業界へ剣道をテーマとした漫画・ドラマ・映画・アニメの制作をはたらきかけてみては如何でしょうか。  
殆どの人気スポーツは漫画起点で愛好者が増加しているはずです。
- ・大きな問題として少子化があると思いますが、幼少期に剣道に接する機会を作ることと、興味を持続させるために、地域の道場や団体の役割が重要と考えます。  
各支部連盟独自で対策を検討する必要があると考えます。
- ・幼少年の普及問題も大切なことですが、当面は部活動地域展開に重点を置いて検討を進めいく必要があると思います。
- ・幼少期からの剣道普及については、剣道の馴染みの薄さもあり、新規の子どもたちを呼び込むことが難しいスポーツだと日々感じています。テレビで目にする機会も野球やサッカー等に比べると圧倒的に少なく、剣道を身近に感じてもらうにはどうしたらよいか、を考える日々です。その為には初心者向けの大会や、初心者が負けても楽しかったと思えるような場づくり、SNSや地域のイベントで剣道はカッコイイ！やってみたい！と思ってもらえるような機会を増やすことが大切なのではないかと思います。
- ・小、中学生が剣道を始めたい！と興味を持つてもらう為にどうすればよいのか？が課題である。
- ・まさに上記の小学生の会員の増加施策のご検討をお願いしたい。  
各支部で実施している事例の紹介わして頂き、参考とさせていただきたい。

・当初国が示した「部活動地域移行」という拳の落としどころを、言い出しちゃの国も含めて、それぞれの関連機関が各々迷走しているように感じています。移行も展開も変わらないという言葉もありましたが、移行が展開に変わったことは、この問題がそう簡単にいかないことを国が多少なり認めている（気づいた）ということで、今後の動向にも注視していく必要があります。

そもそも部活動は、学校の教育活動の一つで、単なる技術指導だけでなく、取り組みを通して人間的な成長を図る総合的な教育活動です。長い間、教育課程外でありながら顧問の尽力によって大きな教育効果を担ってきた部活動を、中学校から切り離すことの難しさと、それに伴う様々な課題が浮き彫りになって、実現についての具体的な方策が見出せないのは、当然だと思います。野見山会長がおっしゃったように、いずれ中学校から部活動はなくなります。切り離されれば、学校の教育活動ではなくなるので、学校運営の範疇ではなくなります。

各競技の人口減少は学校には関係ないことです。しかし、部活動がなくなれば、アンケート調査からも明らかになった中学校の部活動をきっかけに剣道を始める生徒は、皆無に等しくなります。中学生だけで考えれば、70%程度の会員数減ということです。

剣道連盟としては、部活動の存続より、こちらの方か死活問題なのではないかと思います。要するに部活廃止の課題は、学校と行政、連盟の立場によって、全く違うということです。現在部活動に参加している生徒の救済は暫定的な対応です。連盟として同時に考えなければいけないのは、むしろ、幼少期から剣道を始める子供を増やし、その子達に中学校期も剣道を継続させ、高校へと繋いでいく方策ではないかと私は考えています。

方策は支部の環境によってもかなり違います。会長は綾瀬のような小さな支部はやりやすいとおっしゃいましたが、会員数も少なく、剣道部のある高校や大学もない環境では、資金や人材などの資源の確保が厳しいことはスマールスケールの弱点です。正直、川崎や相模原のような取り組みは難しいです。(中高交流もたまひよも現状の部活あって成り立つ部分はかなり大きいですが)さらに、市町村によってこの課題への対応の温度差があることも事実です。

人材も財源もないのに、教員に代わって責任を負うのは無理だと考えるのも当然かもしれません。すでに綾瀬市支部では、地域展開の課題と、その中で何ができるかを考えていかなければならぬことを共有し、その具体的方策を模索しているところです。(なかなか難しいですが)

そのためのヒントを、似たような環境の支部の様子を伺うなどして、いただけることを期待していました。今後もそのような情報交換の機会があるとありがたいです。

併せて、各支部で方策を練ることをおろすだけでなく、神奈川県剣道連盟としてできることを提示していただけるとありがたいし、現状の厳しさを上(全剣連)に上げていくのも必要なのではないかと思います。アンケートをとった意味もそこにあるのではないかと思います。

ボトムアップの責務を担っていただければありがたいと思います。(全剣連には各都道府県から上がった同じような声(課題)を文科やスポーツ庁に届けてほしいと思います。)

- ・小学生への剣道普及についての検討は必要。

スポーツ競技及びスポーツ以外の習い事の多様化の中で、剣道は小学生に対し知名度が低い。剣道が、小学生が競技を選択する際の選択肢となり、剣道を選ぶ子供が増えれば、中学で継続する子供も増え、廃部や統合などの問題がなくなるので、小学生への剣道普及は大切。

(質問)・現在、中学の外部指導者はコネクションがある人がやっていると話がありました。

一方、「令和の日本型学校体育構築支援事業」授業協力者養成講座が行われており、学校からの要請があれば、地域の人が指導できるように準備をしていますが、今後の外部指導者はこの授業協力者から人選されるようになるのでしょうか?

- ・県内の公立中、高等学校で杖道の部活動はありません。杖術は難しいから高校生くらいからでないと理解されないと聞いたことがあります。杖道は形武道で打突位置、打突方法が決められているため、低学年児童には難しいからです。

もし剣道が剣道形だけの武道であったら今ほどの剣道人口に至らなかったと思います。一定のルールの中で自由に打ち合うことができるから児童も熱中できると思います。その魅力を引き出せば児童の剣道人口も増えると思います。ただ、高校、大学生くらいになったら形の重要性も理解していただきたいと思います。剣道形が受審のためだけのものにならないようにしなければいけないと思います。

- ・小学生を増やす活動は、支部としても色々知恵を出し合いながら取り組んできたが、オリンピック競技や様々楽しそうな競技がある中で、中々剣道を選択してもらえない。難しい課題である。

- ・小学生人口を増やしている組織があれば、その取り組みを教えてほしい。

- ・雑誌『剣道時代』の国際版、Kendo Jidai International の運営をしており、少年剣道の取材もたまに行っています。剣道人口の減少に関して、「剣道未経験の保護者 313 名」にアンケートを取り、剣道を他の人に勧めるか聞いたところ、わずか 55%しか「勧める」と回答しませんでした。アンケートに回答してくれる時点で剣道には前向きで、かつ 300 件以上の回答なのでそれなりに信憑性のあるデータかと思います。

[https://kendojidai.com/wp-content/uploads/2024/11/report20241120\\_final.pdf](https://kendojidai.com/wp-content/uploads/2024/11/report20241120_final.pdf)

否定的な理由は、「保護者への経済的・精神的負担」と古い稽古法や価値観への違和感などでした。昨今、パワハラや暴力的な指導で剣道がニュースで取り上げられることが増えました。今後、地域展開が進むにつれてこういった点への啓発や学びの継続、研修の提供がなければ、子供

の人口はどんどん減っていってしまうように感じます。

- ・小学生から剣道を開始しても居住地域の中学校に部活動が地域になく、剣道を断念する例が後を絶たない。港南区においては公立中学では笠下中1校しかなく、この1校ですら時間の問題ではないかと危惧している。部活動全体が地域移行される前に、剣道部が廃止になると、剣道をやめて残存する部活動に参加する子どもが出てくることが避けられず、ここへの対応が必要が打ち手がない状態
- ・港北区剣道連盟では小学生を対象に2025年度は3回体験会を実施しましたが、区内支部への入会は3名でした。他支部の事例や宣伝手段等の共有があるとありがたいです。
- ・個人的には、小学生（幼少年）の剣道離れが喫緊の課題となっています。  
地域の子供育成会での剣道教室やクラブの体験などを随時行っていますが、なかなか子供が増えません。  
Instagramなど、広報活動にも力を入れていきたいと考えています。

- ・私が主婦なので主婦目線の様な意見になりますが、今の時代は共働き世帯も増えてる中で地域移行をしたとしてもボランティアでの活動は難しいのでは無いかと思いました。  
先生方部活顧問の負担を減らす、みなし残業を減らす目的は理解できますが、部活という事を考えるとそれを他の支援、ボランティアで活動することは、少し違和感があると感じました。

#### ◆剣道人口問題について 小学生の普及はもちろん必要だと思います。

しかしながら、子どもたちが取り組むことができる“習い事”は幅が広がっています。オリンピックでは新たに採用される競技が増え、その新たな競技に流れていく子どもたちも少なくありません。少子化の中で剣道に取り組む子どもが減るのは当然と言えます。

剣道人口、特に子どもの剣道人口が減る最大の要因は、剣道の「露出度の低さ」だと思います。小学生自身が、自ら「剣道をやりたい」と言うことはないと思います。親が剣道を「やらせる」というケースがほとんどだと思うのですが、親を含め、親族の中に剣道経験者がいなければ、習い事の選択肢に剣道は入ってこないと思います。それは、剣道の「露出度が低い」ためです。マスメディアが取り上げる機会は全日本選手権の放映のみです。WEB上には、いろいろと剣道の動画などがアップされていますが、これを見に行くのは剣道関係者で、普段剣道とは無縁の方は興味が無いと思います。

武道、特に剣道は鍛錬が求められる競技で、遊びの要素はありませんが、剣道の良さ（格好良さも含めて）を剣道経験のない小学生の親世代に伝える、あるいは子どもたちが「剣道をやってみたい」と思うようになるマスメディアを使った戦略が何十年にも亘って生まれて来ないのが不思議です。全剣連が取り組まなければならないことだと思います。

研究会で事例紹介があった、中高の交流や中学で剣道を始めた生徒のための大会などは、剣道に取り組んでいる中学生に今後も剣道を続けてもらうための“守り”的企画として大変良い内容だと思いますが、小学生への普及を推進するための“攻め”的企画も必要だと思います。剣道連盟の運営を担っている高年齢者の発案ではなく、若い世代の発想が必要かと思います。

- #### ◆中学校部活動地域展開について 鶴見区剣道連盟として、現時点では何をすればよいのか不明です。中学校側からの働きかけがないと、始動できないように思います。
- ・地域で開催する試合運営において、小学生の試合には中/高校生に協力してもらうこと、逆に中/高校生の試合には小学生が応援に行くことで、近く感じられると思います。  
様々な取り組みを参考にさせて頂き、剣道の活性化に貢献出来ればと思います。 ”
  - ・上記（6）で記入した通り。

- ・それぞれの各支部で小、中学生に対する大会等での剣道に興味を持ち続けさせる取り組み（大会種目など）等を教えていただきたい。
- ・中学校部活動地域展開（移行）の現状と今後への備えについて意見交換が行われたが、県剣連会長と発言者との意見に微妙な相違や齟齬も感じられた。
- ・中学校部活動地域展開（移行）について、なかなか予定のスケジュールで進まない原因は何かを県剣連としても分析して各支部に共有してほしい。原因が分かれば課題が明確になると思う。

\*剣道を学校の部活まかせにすることはこれからは困難。

\*であれば「剣道連盟としてどのような事業を興せばよいのか」を真ん中のテーマにするべきだと思います。

- ・研究会では部活動地域展開（移行）による中学校（中学生）の剣道人口問題をテーマに、意見交換を行いました。参加者から小学生（幼少年）からの剣道普及についても検討することが必要ではないかという、貴重なご意見をいただきました。

現在、部活動の地域移行に関して制度が十分に整っていない中で、支部や各剣友会に判断を委ねられている状況に、現場として大きな不安を感じています。漠然としているため、何をどう進めればよいのか分からず、受け入れ側としても子どもたちや保護者への説明が困難です。

子どもたちが安心して剣道に取り組み、保護者も納得して支えられる環境を整えるためにも、県剣連として以下の点について制度的な整備と明文化をお願いできなくないでしょうか。

- ・責任の所在、運営モデル、安全管理のルール、予算等の明確化支部向けの相談窓口の設置
- ・中学校部活動だけでなく、剣友会も減少傾向にある。会員募集は行っているがなかなか集まらない状態です。  
剣道の魅力をアピールするにはどうすればよいのかご教授願いたい。
- ・もしできれば、小学生からの剣道普及についても研究できると良いと思います。
- ・今回は部活動地域展開（移行）による中学校（中学生）を主に対応事例、意見交換の趣旨でしたが、意見交換は県剣道連盟からの一方的な要望の感が強く十分な意見交換とは言えない感じでした。貴重時間なので前もってもう少し細分化したテーマを提示して頂きければ意見も出易いと感じました。  
本テーマに対する県剣道連盟チームの具体的活動内容、今後の計画が今一見えないと感じたので、活動状況をアピールし支部との連帯を強化して欲しい。
- ・保育園児や幼稚園児から剣道に親しむことが出来るようにするための対策を又剣道部が無い小学校に対しても支援が出来ることを検討していきたいと思います。私の所属する剣友会では体育館を使用していますので年に2回お楽しみ会を実施しチラシを在籍生徒の数だけ用意して学校に置かせて頂いています。
- ・連盟主催で広く一般の方に向けて、剣道の魅力を発信する事業展開をしたり、メディアの活用を検討することもいいのではないかでしょうか。プロの選手がいないので難しい点はあるかもしれませんぐ・・・。
- ・現在会員として活動している子供たちに向けて、各地域で剣道教室を実施する。その際、第一

線の選手を派遣すれば、子どもたちにとても良い影響が期待できるのではないかでしょうか。

・選ばれた選手でなくても参加できる練成会の実施や、形・審判講習会を中高生に向けて実施する。

・中体連や高体連が実施している事業において、連盟との連携を図ることを模索する。

・研究会に限らず、どのスポーツ競技においても子供達の人口減少傾向にあります。

将来を見据えた剣道の魅力、剣道の楽しさを、広く発信させるような取り組み方や行動計画を示す施政が必要ではないかと思われる。”

・今の子供達は、スマホでのゲームやユーチューブ、サブスク等を良く見ている為興味が沸いていない。又は知らない、面倒くさいと思っているのではないか。

対策として剣道を題材としたドラマが有れば、その影響で子供も大人も興味が沸いてくれるのではないか。きっかけを作れるのではないか。

・同感です。

・少子化に伴い小学生の剣道人口が減っています。剣道を始める子供たちの目にとまるようなメディアやアニメーション、マンガ等、興味の湧く様なアプローチが欲しいです。

また、剣道を始める子供たちへ何かしらの支援（竹刀、剣道具の割引）が欲しい。

・通常の大会に加えて、小学生初心者（3級以下）を対象にしたイベント（大会）でリーグ戦・総当たり戦などで、負けても次がある仕組みを設けることで、初心者の子どもたちは剣道の楽しさを実感しやすくなると思います。

幅広い子どもたちが剣道を続けやすくなり、勝ち負けだけでなく礼儀や心の成長を大切にする剣道の良さを感じられる環境につながると思います。

子どもたち自身が「続けたい」と思い、親御さんも「やらせたい」と感じる環境が広がり、今後も剣道を続けたい子どもたちが一人でも増えてほしい。

☆「武道の復旧」「武道の魅力」「武道の必要性」などをテーマとし、現場や地域のみでなく市町村～県～国組織で剣道のメリットをPR、結果、小学校の体育の授業の一部(体育等)に取り入れる。その際の指導者は、教員(経験者)又は教員立ち会いのもと、地域の経験者。

☆剣道のメリットとは……①姿勢が良くなる ②身体が丈夫になる ③精神力を培うことができる ④挨拶ができるようになる ⑤瞬発力が養える ⑥頭が良くなる(個人差はあるが) ⑦結ぶ、ほどく、折り畳む、包む、広げるなど日本独自の文化を体験できる。

・働き方改革を理由に、本当にこんな事をして良いのか?という気持ちがある。

将来の若者が、頭でっかちのモヤシみたいな人間ばかりになってしまうのではないか等の不安もあり、全剣連より文科省・スポーツ庁への働きかけも、合わせてやって行く必要があると思います。

・中学校の剣道部に外部指導員（地域指導者）として5年ほど関わっています。実際に廃部になる中学校もあり、大会に参加する生徒の数が減り、活気が無くなりつつあります。中学校の先生の多忙さもよく分かります。地域の剣道経験者と部活動の繋がりがより密なものになるように、微力ながら務めていければと思います。

○女性剣士の継続・増加を促進する方法やイベントの考察などテーマとしてはいかがでしょうか。

○準備から、発表まで検討部会・事務局みなさまお疲れさまでした。

・小学校卒業で剣道から離れてしまう子も多くいます。また中学の部活が忙しく、なかなか支部道場にこられない子もいます。そういう意味では、剣道は面白い、続けてみようと思うような工夫も必要だと思います。

しかしながら、中学校から剣道を始める子も相当数いて、やはり中学生をいかに継続させるかは大きな問題であり、課題の一つとして考えていきたいと思います。

・小学校では剣道にあまりふれたことのない人が多くいるように感じます。

・小学生の剣道普及も大事だと思います。”

(8) 今回、ペーパレス化の方針のもと、大半の資料は印刷なしで説明しましたが、プレゼン後数名の方から「全然見えなかった」と言われました。紙の資料があった方が良かったか否か回答をお願いいたします。

紙の資料が欲しい 20人  
ペーパレスで構わない 36人

- ・ZOOMオンライン開催、後日動画配信(限定公開)も良いと思います
- ・データ送信の利用。枚数が多いため、個人印刷は大変?
- ・配付用に予備資料を要しておく必要があります。
- ・資料を出すのであれば項目程度でよいと思います
- ・あらかじめ資料をみておけば
- ・事前にダウンロードした資料を iPadに入れて参加したので、拡大して見ることができたので問題はありませんでした。ただ、スマホで見るには資料の文字が小さいと思います。ペーパレスにした場合、参加者がノートPCや iPadなどで見るに前提の資料だったと思います。スマホを想定するのであれば、枚数が増えてももう少し大きめの文字やレイアウトを工夫する必要があると思います

※各自でプリントアウトして持参するか、データ保存して用意するように周知すればよいと思います。(紙の資料を用意するのは大変だと思う)"

- ・ペーパレスで構わないが、投影での実施する場合はプレゼン資料の工夫もしくはデバイス持ち込みが大前提であると考えます

※事前に資料もアップされているので当日は手元でパソコンを見ながら参加しました。  
経費削減のためにもプリントアウトはせずに各自プリントアウトするなどで  
良いのではないでしょうか。"

- ・全ては必要ないが、ポイントを絞った資料として